

告を受けたうえで、公共下水道事業の実現可能性を見極めていけると考えます。

**Q** 現在の汚水処理の現状はどうか。

**A** 都市整備課長 人口全体に対して、農業集落排水10・1%、合併浄化槽37・5%、計47・6%普及している状況です。

**Q** 構想の策定スケジュールと実施年度等はどうか。

**A** 都市整備課長 平成28年度に予定されている県の「全県域汚水適正処理構想」の改訂に合わせて見直します。この見直しで、公共下水道事業に取り組みこととした場合、下水道法及び都市計画法等の手續きに2年から3年、管渠、ポンプ場、処理場の整備に7年から8年のスケジュールとなる見込みです。

**Q** 流末等がない場合、蒸発散装置の設置等考えられるが、補助金についてはどうか。

**A** 経済環境部長 切り替え時に20万円の補助金が出ます。

**Q** 生活雑排水が流入する用排水については把握をしているか。

**A** 経済環境部長 把握していません。一部排水路の使用がされていると認識しており、浄化槽法また水質汚濁防止法により、浄化槽等での処理が、排水の基準です。未処理の家は、合併浄化槽の設置を促す等の指導をしています。

### 財政健全化への方途について

**Q** 7月に示された、今年度の普通交付税の減額の理由はどうか。

**A** 財政課長 平成25年度に比べ減額となった主な要因は、交付税の算定に使用する法人市民税・地方消費税交付金の収入増と、費用を算出する単価の減が、主な要因です。

**Q** 財源の確保の面から負担金や補助金の内容を精査し聖域なき削減も必要ではないか。

**A** 財政課長 今後も補助金の交付が既得権

化しないよう留意するとともに、当初の補助目的を達成した事業は廃止を検討するなど、広域性、公平性、透明性の確保に主眼を置いて、縮減を進めていく予定です。

**Q** 山武市補助金等交付規則については、加筆という形の改正も検討してはどうか。

**A** 財政課長 見直しをしたいと思います。

**Q** 歳計現金・歳計外現金の運用についてはどうか。

**A** 財政課長 支払い準備に支障のない期間及び額に限り、譲渡性預金による短期的な運用を行っている状況です。

### 代表質問



高橋 忠 議員

### 日向の森(旧出光跡地)について

**Q** 現状はどのようになっているのか。

**A** 市長 県の要請で、作田川改修による資材や残土のストックヤードとして利用したり、また、プレセントツリーさんむ日向の森というプロジェクトにより寄附植樹や、ボランティア団体による自然環境の整備をしています。

**Q** 広い面積であり、自然を残しながら有効な活用をどうすべきか、しっかりと実現可能な計画を作ることができなかつたことが、現在まで続いていると考えています。

**A** 市長 現在まで続いていると聞いています。ワタミのNPO法人に、10年間の無償

貸与をしたが、面積はどのくらいか。

**A** 経済環境部長 平成24年10月に、日向の森森林保全活動に関する協定を締結しました。その面積は11ヘクタールです。

**Q** 協定締結時に、無償貸与は残念であると話したが、NPO関係者は年間何人ぐらい来ているのか。

**A** 経済環境部長 平成25年度は25回で、510名です。東京近郊在住の会員やご家族等が、下草刈り、間伐などを実施しています。本年度は8月までに7回、98名が参加しています。

**Q** 広大な土地を無償で貸与をしていることから、地域経済に寄与するよ

**A** 市長 日向の森を何らかの開発をする

その結果として、地域で雇用が生まれ、活性化するとと思うがどうか。

**A** 市長 自然に調和し、雇用も生まれるようなオファーがあった時、しっかりと対応できるようにしなければいけないと思います。しかし、基本的には今すぐ手をつけなければならぬ資産ではないと考えています。

**Q** この土地の利活用については、平成18年の一般質問以来、8年が経過しているが、その間何も動きが見えない。

**A** 市長 興味を持つ事業主がいると思うが、そのような法人等を取り込む努力をすべきではないか。

**A** 市長 日向の森を何らかの開発をする

減が心配される中、民間の力やノウハウを導入し、新たな税源、税収対策のために資産運用として活用すべきではないか。



緑豊かな日向の森

人口減少による税収減が心配される中、民間の力やノウハウを導入し、新たな税源、税収対策のために資産運用として活用すべきではないか。

内部の検討をやっておく必要があるし、たくさんのおプションを持つておく必要があります。市民が本心に歓迎できる